

「我が国における学術研究動向調査」の実施について（案）

1. 趣 旨

平成 18 年 1 月 20 日の科学技術・学術審議会学術分科会（第 18 回）会合において、今後学術分科会では「学術研究分野・領域の特性に応じた振興方策の在り方について」審議することが決定され、（1）近年の学術研究の動向把握及び分析、（2）（1）での学術研究の動向分析を踏まえた支援方策の検討を行うこととされた。

このことを受け、具体的な検討を行う場である学術研究推進部会においては、当面の間、独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター等の協力を得て、「我が国における学術研究動向調査」を実施する。

2. 調査方法（案）

（1）科学官・学術調査官、外部有識者等からのヒアリング

学術研究推進部会において、各分野の科学官・学術調査官、外部有識者等から、専門分野及び関連分野の研究動向について発表していただき、意見交換を行う。

（2）独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センターによる調査

独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター研究員等に対して、アンケート調査やヒアリング等を実施し、学術研究の動向について取りまとめる。

3. 調査項目（案）

研究分野ごとに以下の項目を調査する。

調査項目 I 研究動向

（1）過去 10 年間の研究の展開

（2）現在、研究者の関心が集中している研究テーマ

（3）国際的な研究動向

（4）今後、10 年間で特に進展が見込まれるテーマ など

調査項目Ⅱ 研究分野の特性

(1) 研究手法の特性

- ・主に実験を行うもの、主に理論探究を行うもの、主にシミュレーションを行うもの（理工系、生物系等）
- ・主に実地調査を行うもの、主に文献調査を行うもの（人文社会系等）

(2) 研究内容の特性

- ・他の研究分野・領域との関係で不可欠な基盤的意義を有するもの
- ・学術研究全体のバランスのとれた発展の観点から、特別の配慮を要するもの
- ・新分野を開拓できる人材を生み出す上での基礎教育的見地から意義を有するもの
- ・長期的な視点での研究基盤整備がなければ研究継続が困難なもの
- ・国際的なリーダーシップを発揮できるもの（研究遂行上必然的に、大きな資源の投入を必要とするものを含む）
- ・追加的投資により格段の発展が期待されるもの
- ・他の研究分野・領域を牽引し、先導的意義を有するもの
- ・現代的な課題の解決に向けて、社会的要請の高いもの
- ・他分野との連携・融合により新たな学問的展開が見込まれるもの など

(3) 研究成果の特性

- ・成果の形態（論文、著書、辞典、作品、試作品、特許など）
- ・一定の成果がまとまるまでの標準的な期間
- ・教育活動や社会貢献活動との関わり など

調査項目Ⅲ 研究推進のために必要な支援方策

Ⅱで把握した研究分野の特性から、必要とされる支援方策について整理する。

(1) 研究人材・研究体制の支援方策

(2) 研究環境・基盤の整備方策

(3) 研究費の支援方策

(4) 研究時間の確保 など

(参考)

【科学官・学術調査官の分野構成】

人文学	哲学、史学
社会科学	法学、政治学、経済学、経営学
数物系科学	天文学、物理学、地球惑星科学、プラズマ科学
化学	基礎化学、複合化学
工学	応用物理学・工学基礎、機械工学、電気電子工学、材料工学、総合工学
生物学	基礎生物学、生物科学、人類学
農学	農芸化学
医歯薬学	基礎医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学
総合・新領域	情報学、実験動物学

【日本学術振興会学術システム研究センター研究員の分野構成】

人文学専門調査班	哲学、文学、言語学、史学、人文地理学、文化人類学
社会科学専門調査班	法学、政治学、経済学、経営学、社会学、教育学、心理学
数物系科学専門調査班	数学、物理学（素粒子学等、物性等）、地球惑星科学、プラズマ科学
化学専門調査班	物理化学、有機化学、生体関連化学、無機化学、無機工業材料、分析化学、環境関連化学、合成化学、有機工業材料、高分子化学、高分子・繊維材料、機能物質化学、機能材料・デバイス
工学系科学専門調査班	応用物理学・工学基礎、機械工学、総合工学、電気・電子工学、情報学、土木工学、建築学、材料工学、プロセス工学、ナノマイクロ科学、環境学
生物系科学専門調査班	基礎生物学、生物科学、人類学
農学専門調査班	農学、農芸化学、境界農学、林学、水産学、農業経済学、農業工学、畜産学、獣医学
医歯薬学専門調査班	薬学、基礎医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学、歯学、境界医学、人間医工学、社会医学、看護学